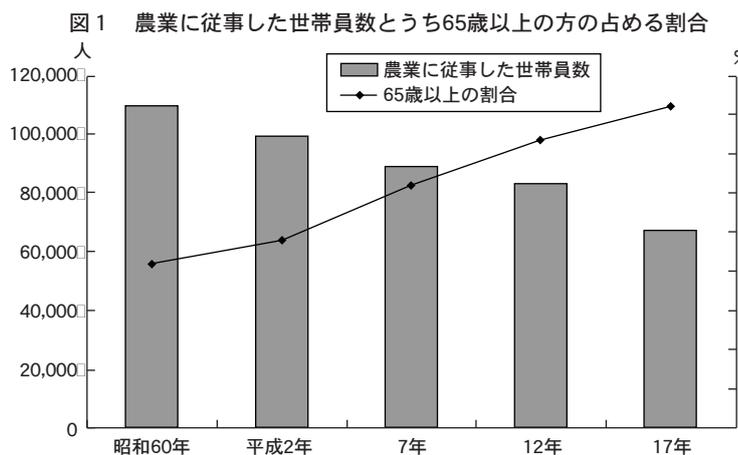


減りゆく農業従事者

今年の秋にはすべての方を対象にした国勢調査が予定されていますが、農林業に従事する方すべてに調査をお願いする「2010年世界農林業センサス」が平成22年2月1日現在で実施されています。

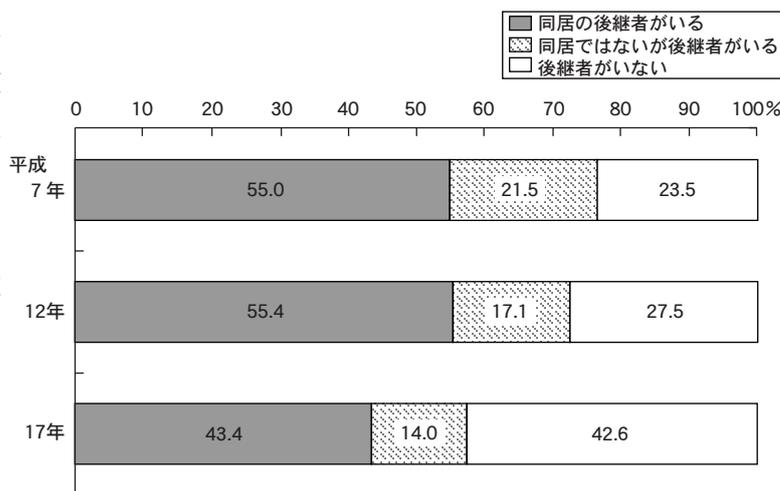


農林業センサスは、我が国の農林業・農山村の現状と動向を明らかにして、農林行政の推進に必要な統計データを整備・提供することなどを目的としています。サービス産業へのシフトが拡大していく中で、第1次産業である農林水産業従事者の減少傾向が続いています。

図1は、京都府の販売農家の農業に従事した世帯員数の推移と、その内65歳以上の方の占める割合を示したものです。従事者数の減少が続いているなかで高齢者の割合が増えてきており、平成17年には4割を超えていることがわかります。

次に、後継者がいるかどうかについて調査したものが図2です。平成7年には、同居している後継者のいる農家が半数を超えていましたが、平成17年になると後継者のいない農家が4割を超える状況となっています。□

図2 後継者の有無とその同居状況の割合



不況による失業などもあって、意欲的に農業に従事する若者が増えてくるなど農業を見直す動きや、機械化等により農家1戸あたりの耕地面積も増える傾向もありますが、農林業センサスは我が国の食糧の自給という点で、ゆゆしき事態を示しています。また、食料の安定供給という豊かな食生活の維持だけでなく、環境保全や美しい景観を守るためにも、農林業のあり方を今一度考えていく必要があるのではないのでしょうか。